



仙波糖化工業株式会社

証券コード：2916

個人投資家様向け会社説明会資料

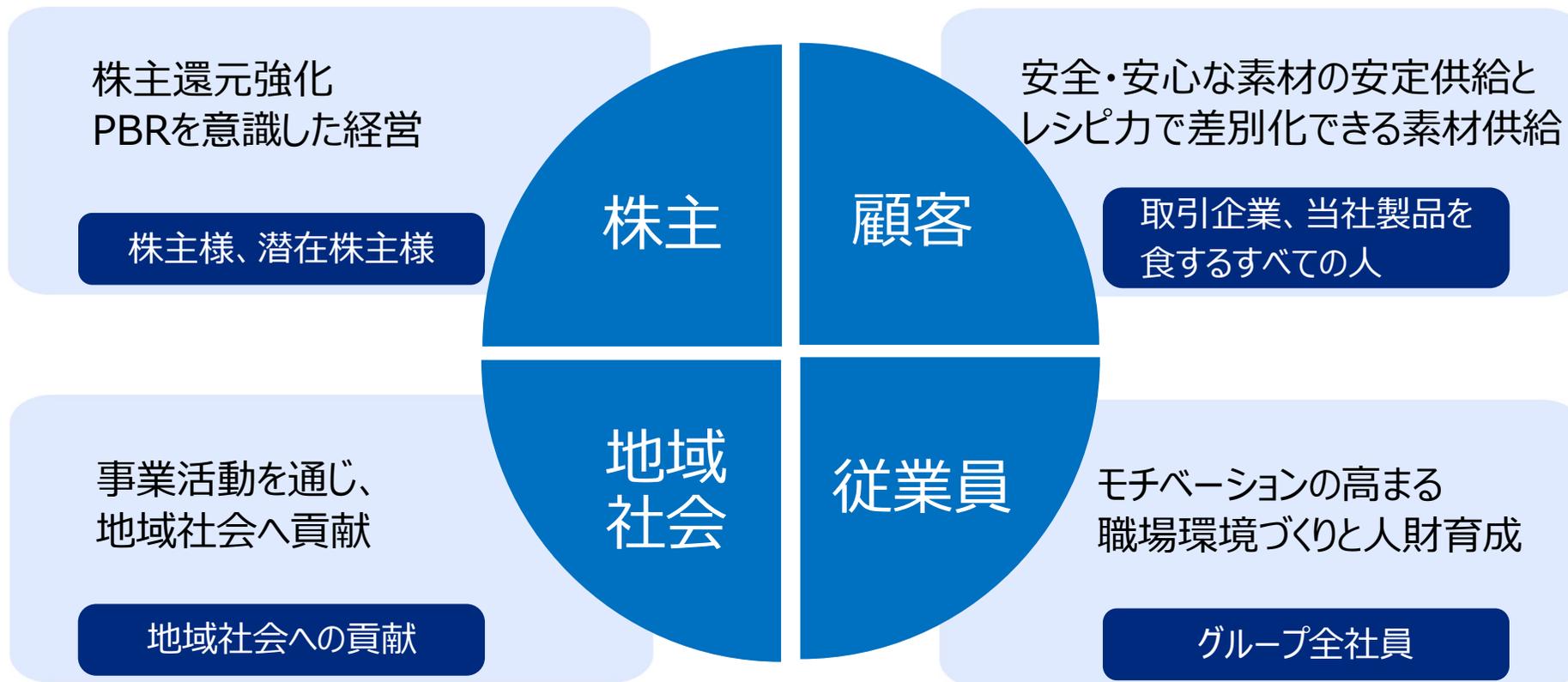
2025年3月1日

目次

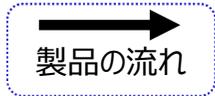
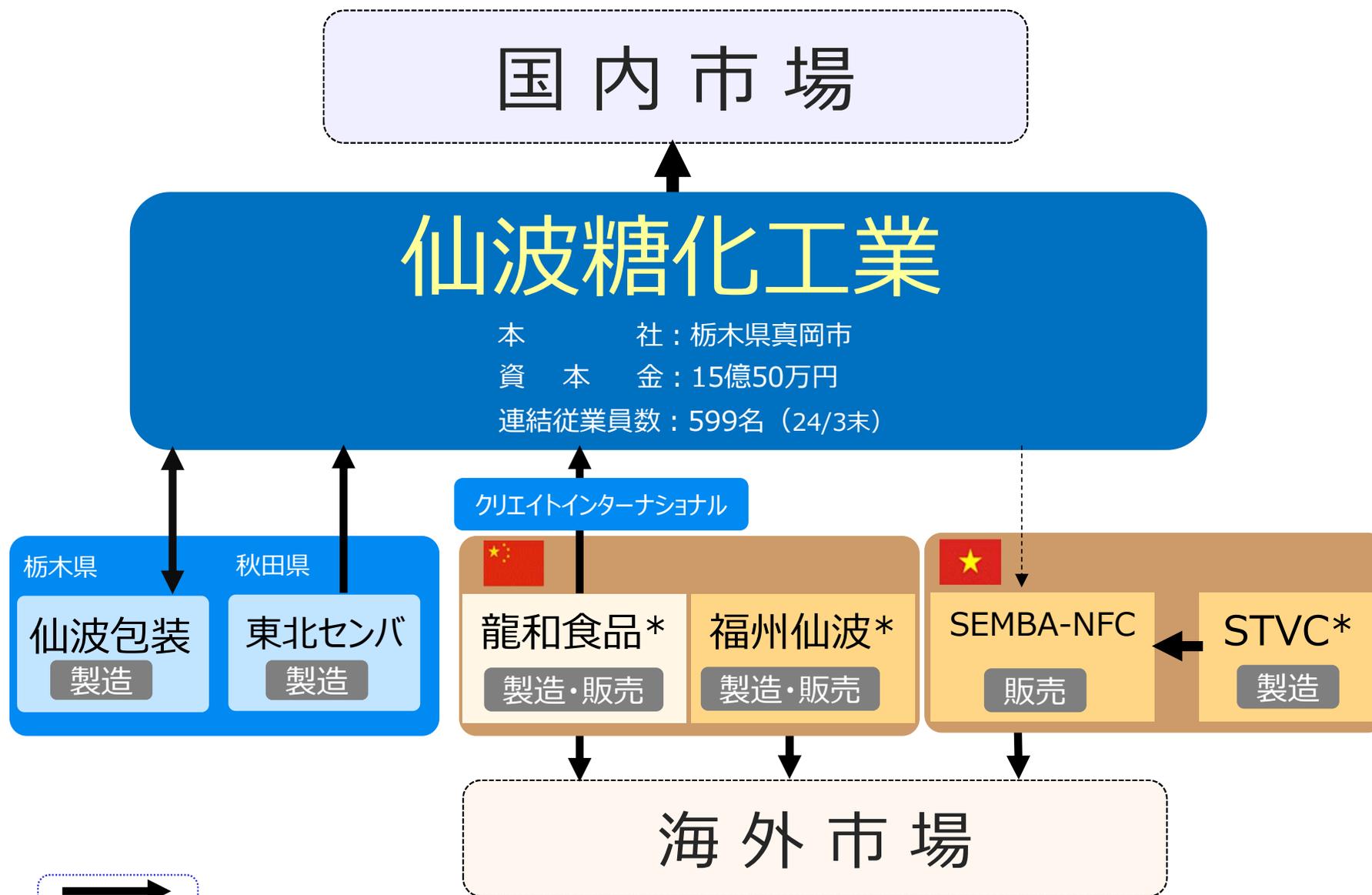
I	会社概要	P 2
II	成長戦略	P14
III	2025/3期業績予想	P22
IV	株主還元	P26
	参考データ	P29

I . 会社概要

100年企業に向けた強固な基盤構築



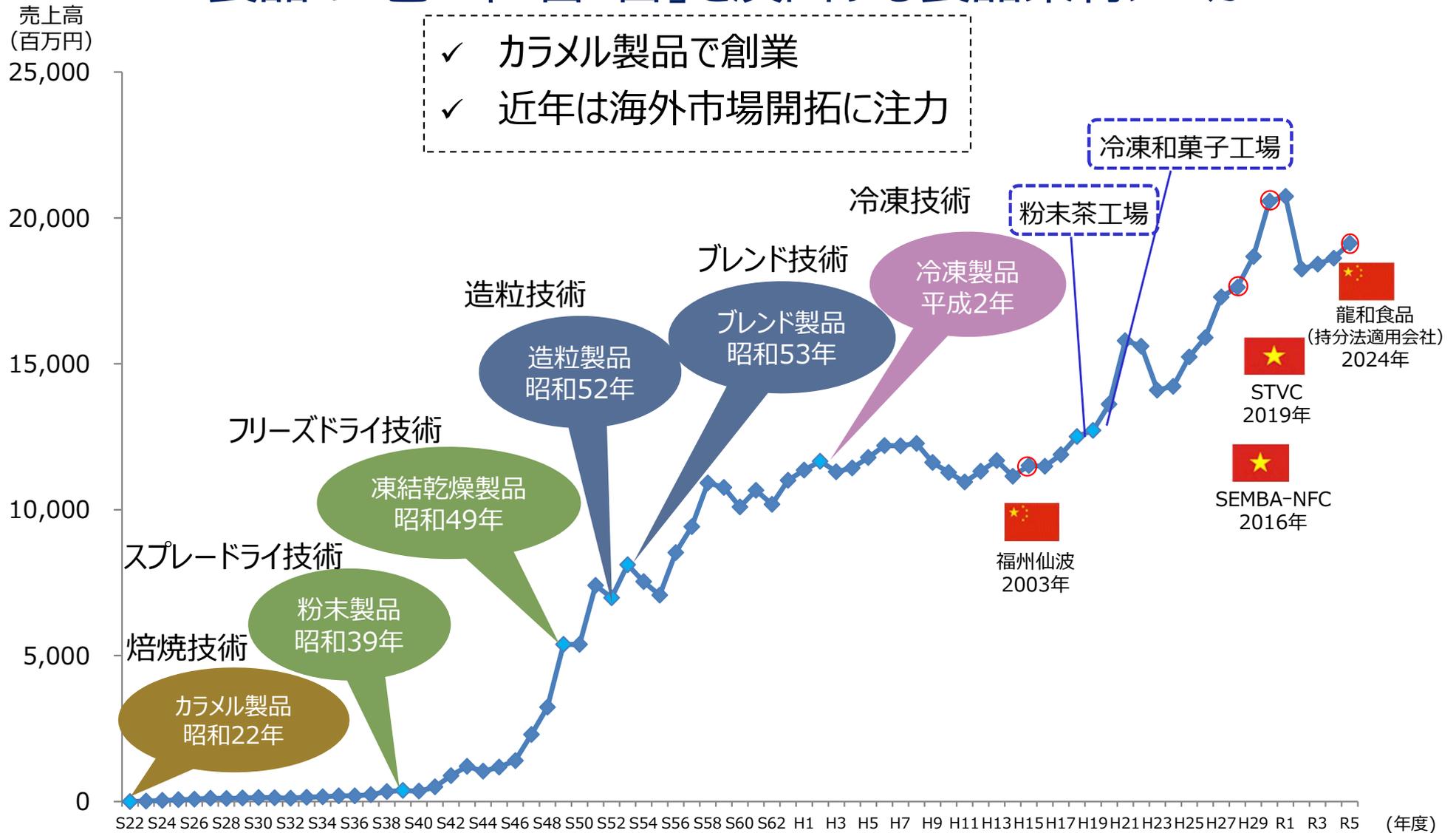
より良いものを作り、顧客信頼度を向上させ、
収益を伸ばすことで株主様、従業員、地域社会への還元を増やす



STVC* : SEMBA TOHKA VIETNAM COMPANY LIMITED
福州仙波* : 福州仙波糖化食品
龍和食品* : 福建龍和食品実業 (持分法適用会社)

業容拡大の歴史

食品の「色・味・香・旨」を演出する食品素材メーカー



- カスタードプリン、炭酸飲料・コーヒー牛乳 にも…



- インスタントラーメン にも…



- 粉末茶 にも…



- インスタントコーンスープ にも…



- 即席味噌汁 にも…



- お好み焼き にも…



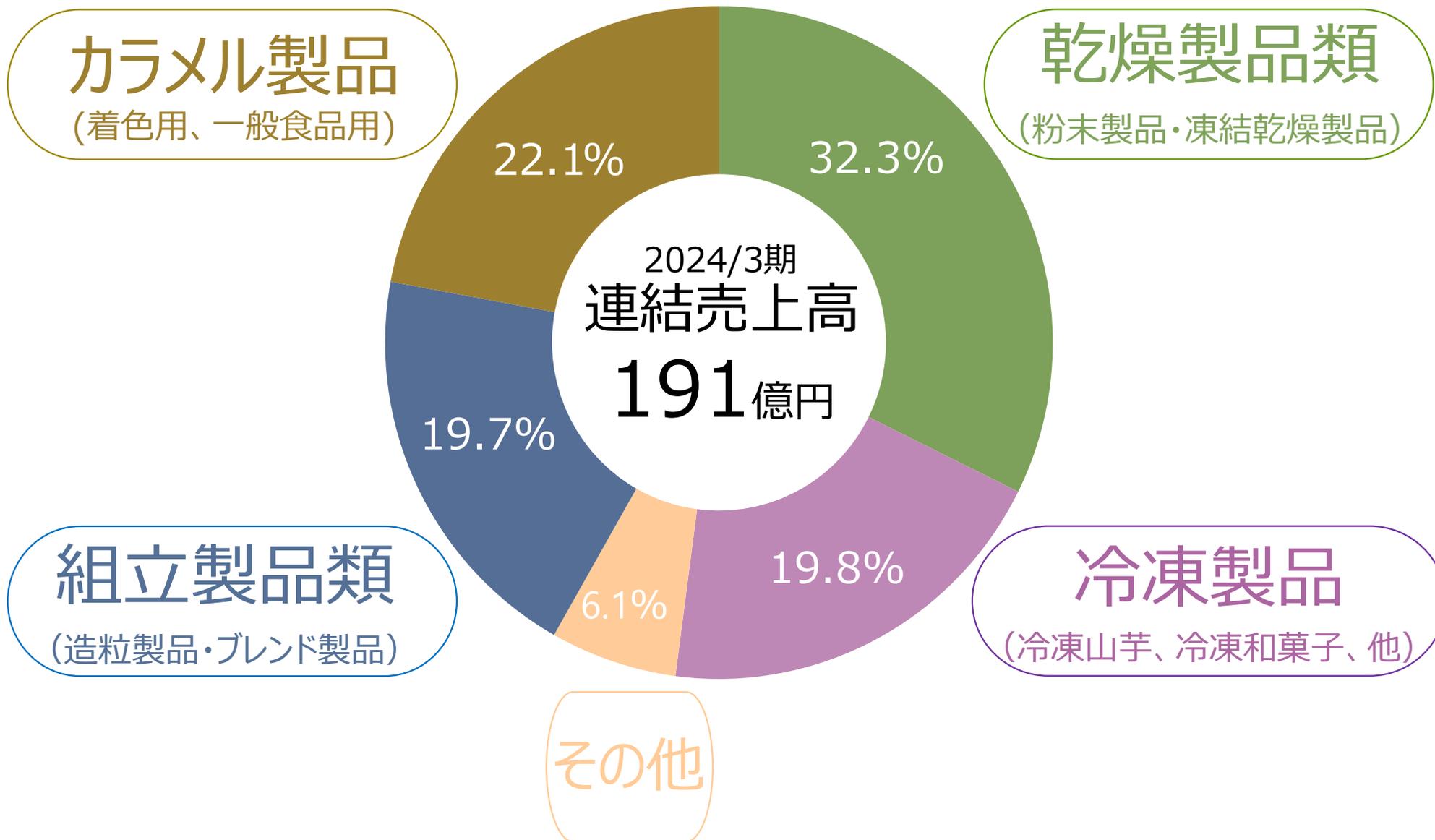
- とろろそば にも…



- 冷凍和菓子製品



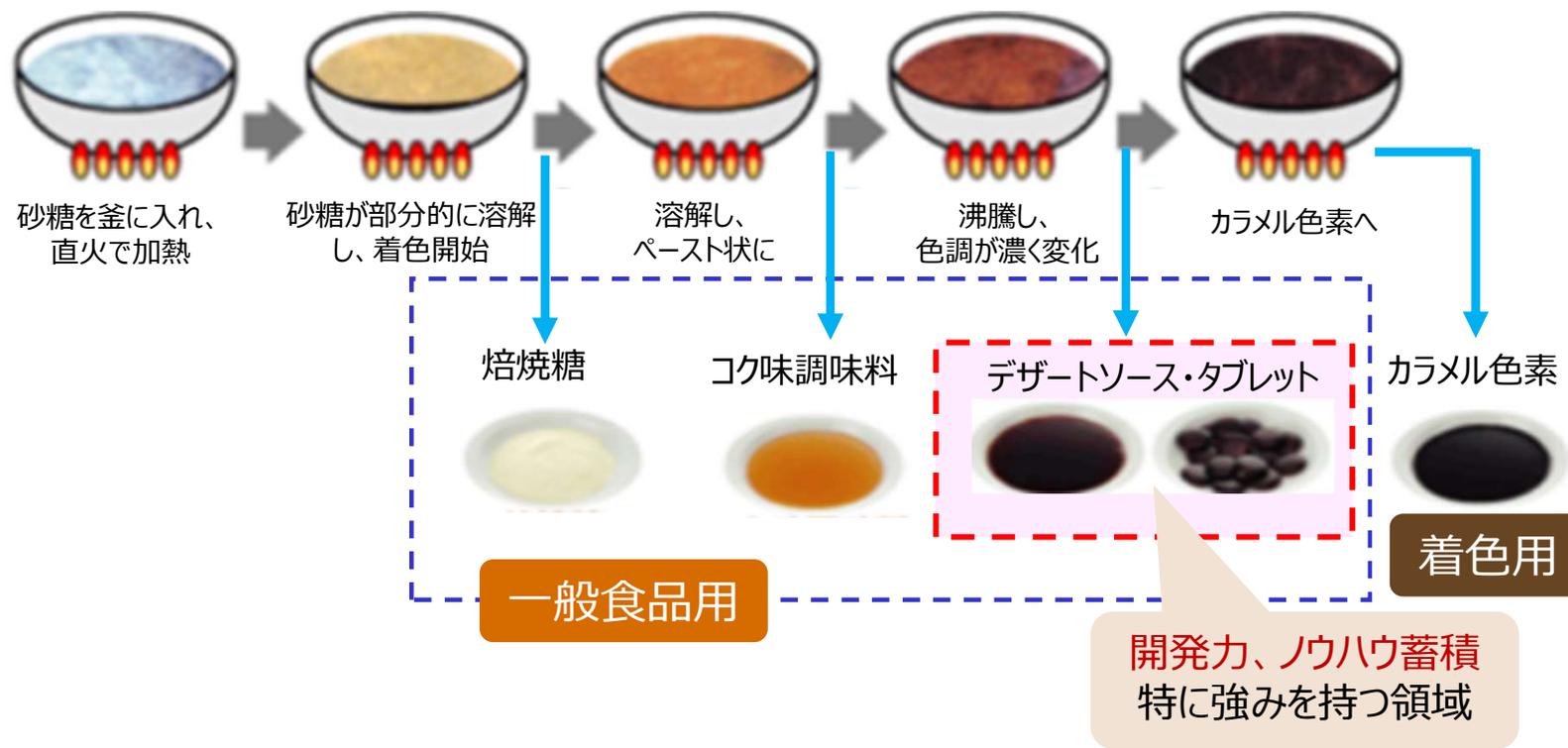
製品区分別売上構成



- ✓ 創業商材。国内シェアトップ
- ✓ 焙焼技術で着色用と一般食品用を作り分け
- ✓ 高付加価値のデザート向け新製品開発に注力
- ✓ 海外需要の取り込みで成長を目指す

焙焼技術とは

糖を独自のノウハウで加熱し、多用途な製品を作り分ける。
キャラメル製品は用途に応じて液状製品と固形製品に大別される。



海外市場取り込みと一般食品用の拡販に注力

着色用

- 清涼飲料やアルコール飲料の飲料向け
- ソース、カレー等、幅広い需要

一般食品用

- プリン等のデザート向けやココ味調味料向けが主力
- 高級洋菓子やアイスクリーム向け好調

一般食品向け製品例

カaramelソース
(ボトル品) (顆粒品)



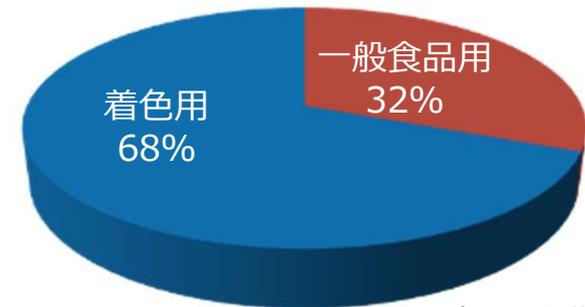
カaramelソース
(タブレット)



キャンディー・チップ

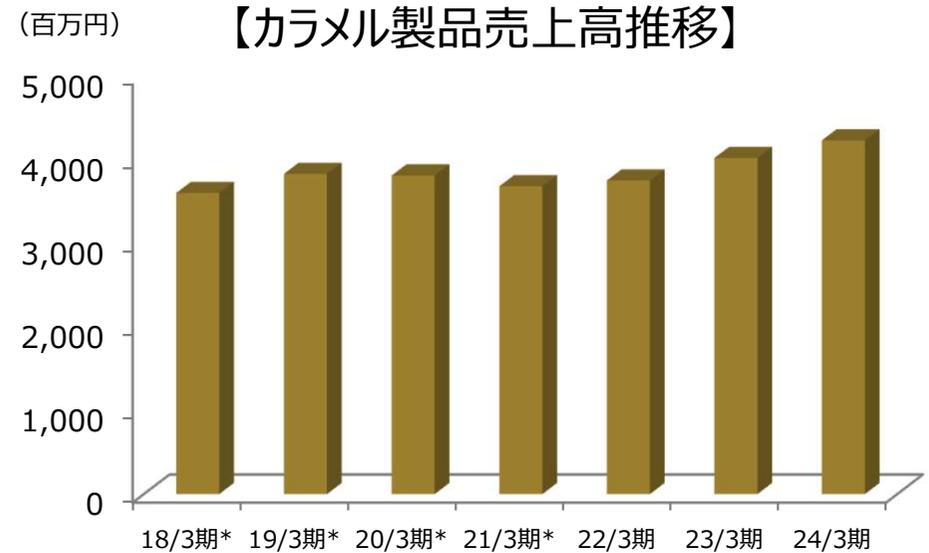


用途別カaramel製品売上構成



(2024/3期)

【カaramel製品売上高推移】



(注*) 21/3期以前は旧会計基準

- 売上高の約80%は B to B、粉末製品と凍結乾燥製品を手掛ける
- 粉末製品は、粉末茶や粉末調味料（醤油や味噌）などを販売
- 凍結乾燥製品は、野菜ブロックや粉末山芋が主力

当社の主力製造技術

粉末製品

スプレードライ(SD)技術

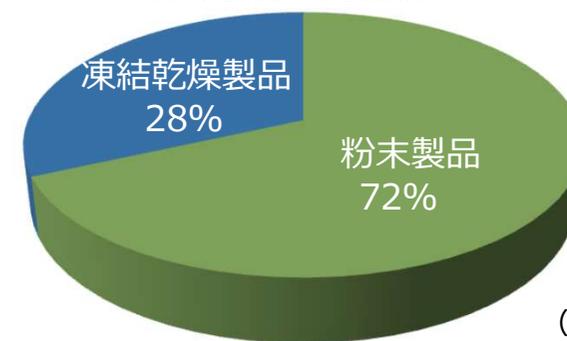
液状化した原料を霧状にし、加熱空気で瞬間的に粉末化する乾燥技術。乾燥工程が短く、大量生産に威力を発揮し、高品質で、低コストな製品の安定供給が可能。

凍結乾燥製品

フリーズドライ(FD)技術

凍結させた原料を真空状態のもと、低温で乾燥させる技術。素材の色、味、香り、栄養をそこなく乾燥することが可能。保存性や簡便性に加えて、機能性が高い乾燥方法。

乾燥製品類売上構成



(百万円)

【乾燥製品類売上高推移】



(注*) 21/3期以前は旧会計基準

【国内市場向け】

粉末製品例



凍結乾燥製品例



粉末山芋 野菜ブロック

聖シリーズ【煎茶】【ほうじ茶】



【紅茶】



稀シリーズ【煎茶】【ほうじ茶】



【玄米茶】



【麦茶】



【海外市場向け】

粉末製品例



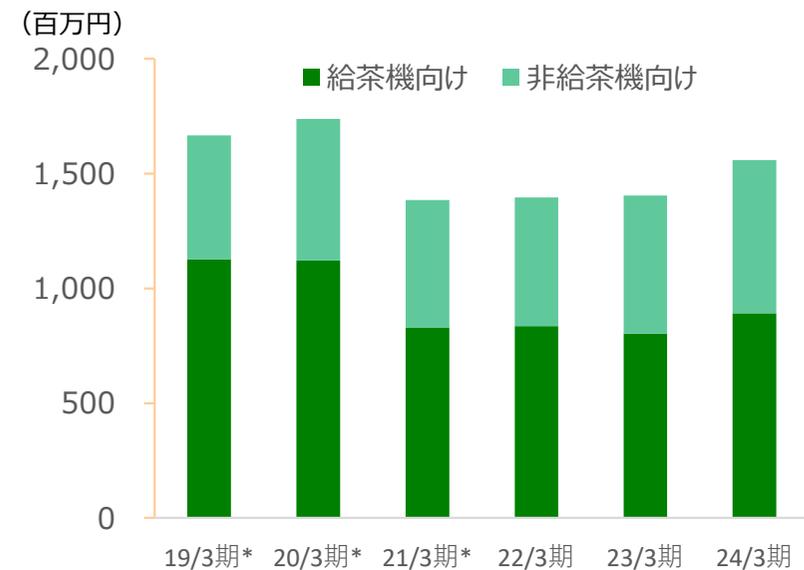
抹茶ラテ

凍結乾燥製品例



スープブロック

【給茶機向けが回復傾向の粉末茶売上高】



(注*) 21/3期以前は旧会計基準

- 冷凍和菓子はメディケア市場向け中心に、約50種類を販売
- 冷凍山芋は業務用・CVS向け中心。取扱量は業界2位

【冷凍和菓子】

どら焼きやドームケーキの拡販続く



【参考：海外市場向け製品】

海外売上高は、中国子会社の持分法適用会社化（2024年6月）で今期2Qから売上計上がなくなる



【タピオカ】



【求肥】

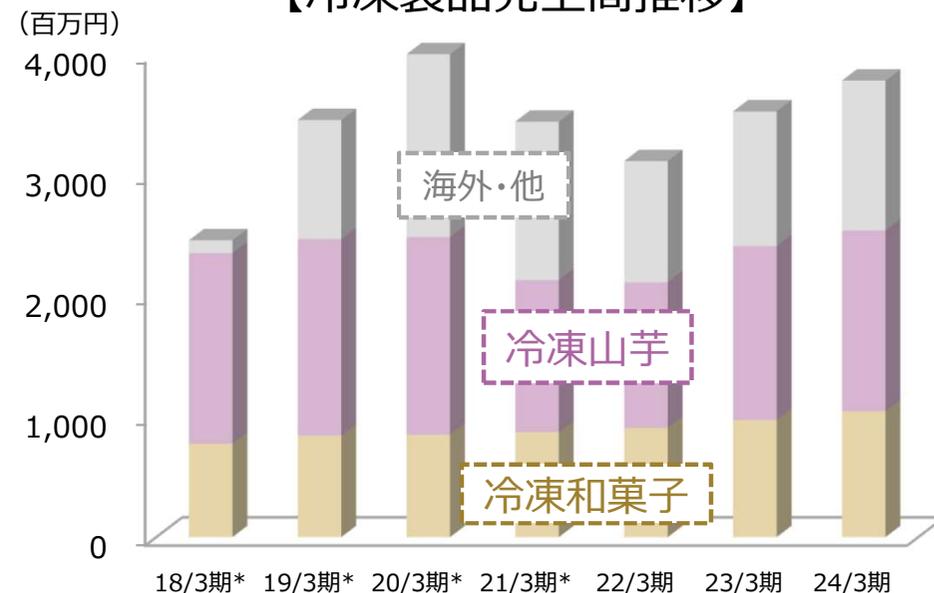


【白キクラゲ】

冷凍山芋



【冷凍製品売上高推移】



(注*) 21/3期以前は旧会計基準

- 造粒製品とブレンド製品とも受託加工が中心
- 溶け易くななどのキーワードで提案営業を強化
- 23/3期からスポーツサプリが消費行動の変化により大きく落ち込む

造粒とは

粉末食品の「溶けにくい」、「流動性が悪い」、「吸湿性が強い」等を改善し、より使い易い最終商品へ仕上げる。

造粒製品

スープ類、健康食品、スポーツ飲料、ココア等



ブレンドとは

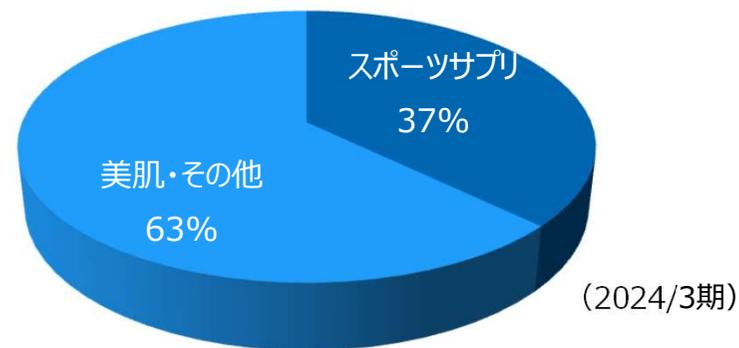
各種原料を混合し、原料の持ち味を活かした粉末状調味料やインスタント食品などを製造する。

ブレンド製品

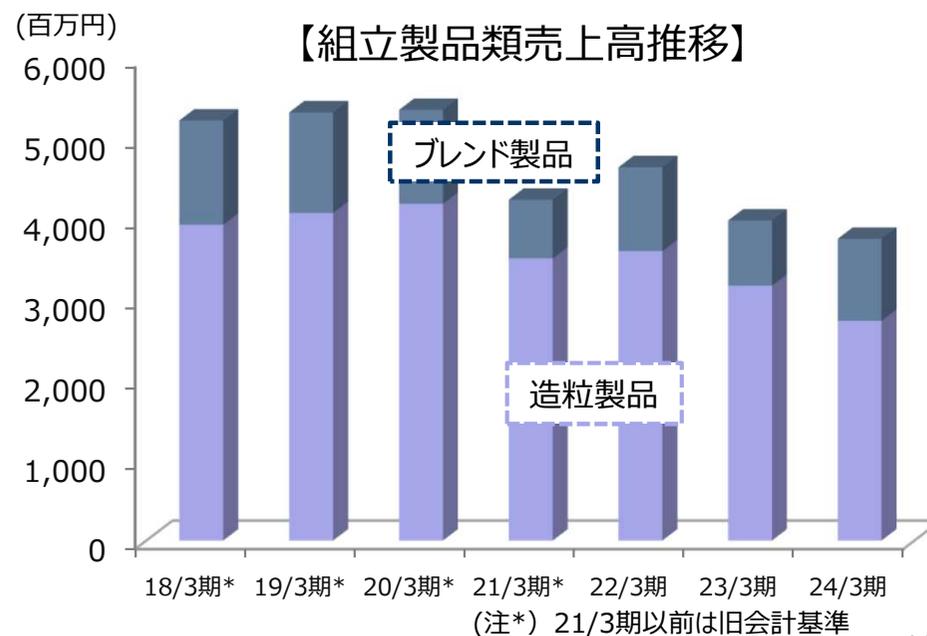
小麦粉ミックス、唐揚げ粉、みそ汁、粉末エキス等



【健康食品の売上構成】



【組立製品類売上高推移】



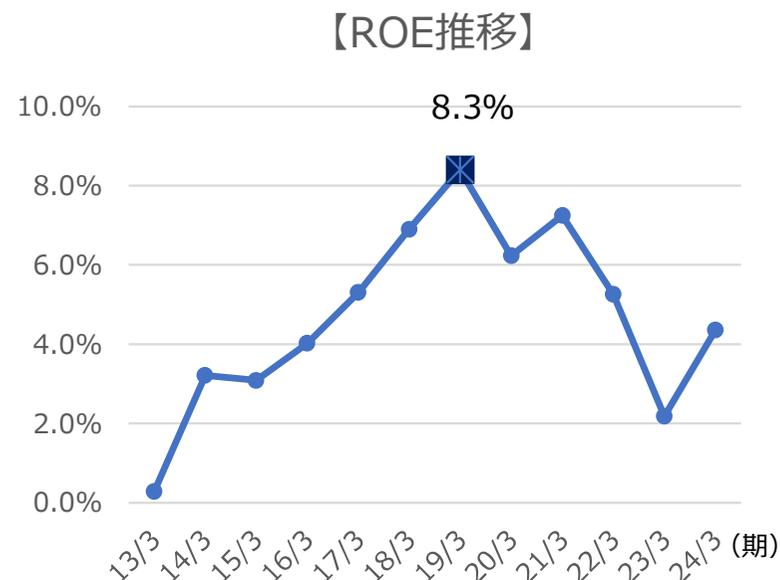
Ⅱ . 成長戦略

$$\text{PBR} = \text{ROE} \times \text{PER}$$

(株価純資産倍率) (自己資本利益率) (株価収益率)

現状のPBRは、0.7倍程度

- ・ROEがピークとなった19/3期中の2018年8月には、PBR1.5倍を記録
- ・前期のROEは4.4%に回復するも水準は低い



主にROEを高めることでPBRの向上を図る

- ✓ ROE向上は、営業利益の拡大で達成させる
- ✓ PER改善は、投資家との対話強化が必要と認識
 - ⇒ 中期的な成長戦略や投資家が収益構造等を理解し易い情報開示を目指す

基本戦略

グループ経営力強化

- ◆ 単体経営からの脱却
- ◆ 子会社の管理強化

自社商材拡販

- ◆ 開発強化
- ◆ 提案営業強化

海外市場開拓

- ◆ 東南アジア市場向け

営業キャッシュフローの最大化を目指す

成長投資資金の確保と還元強化

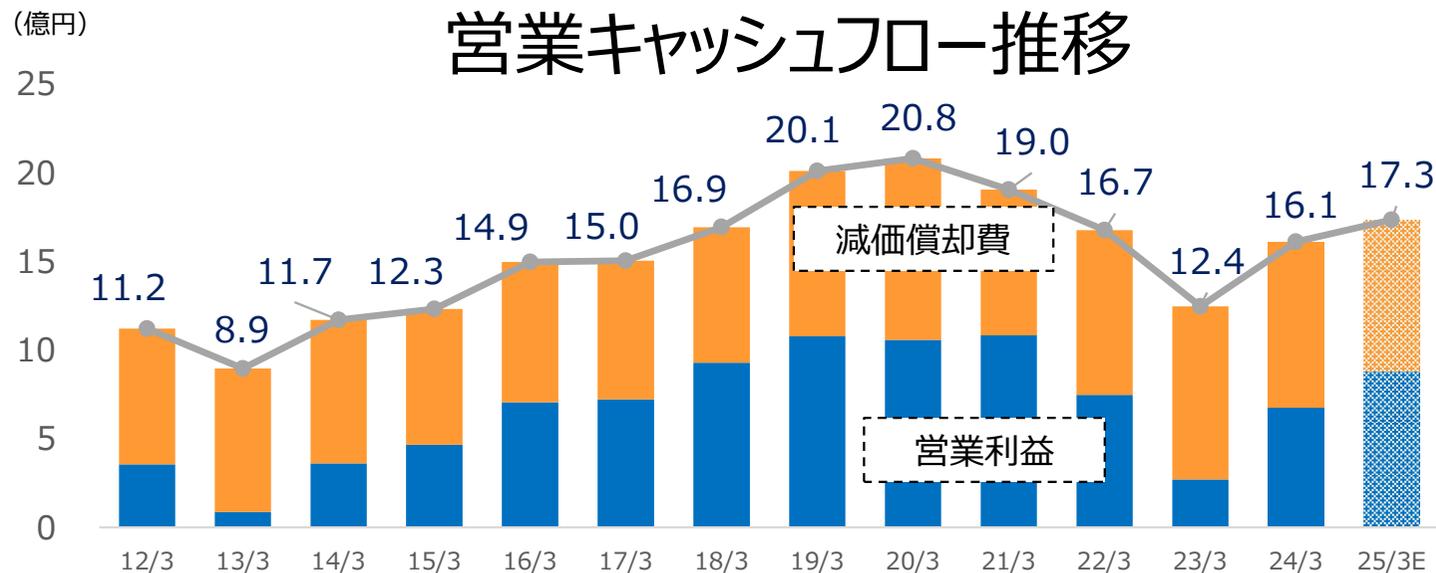
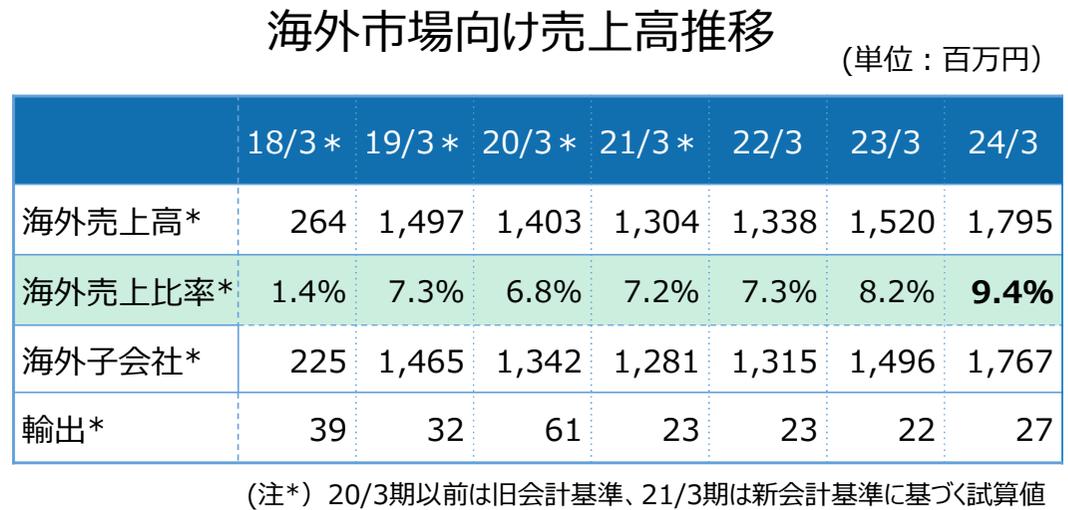
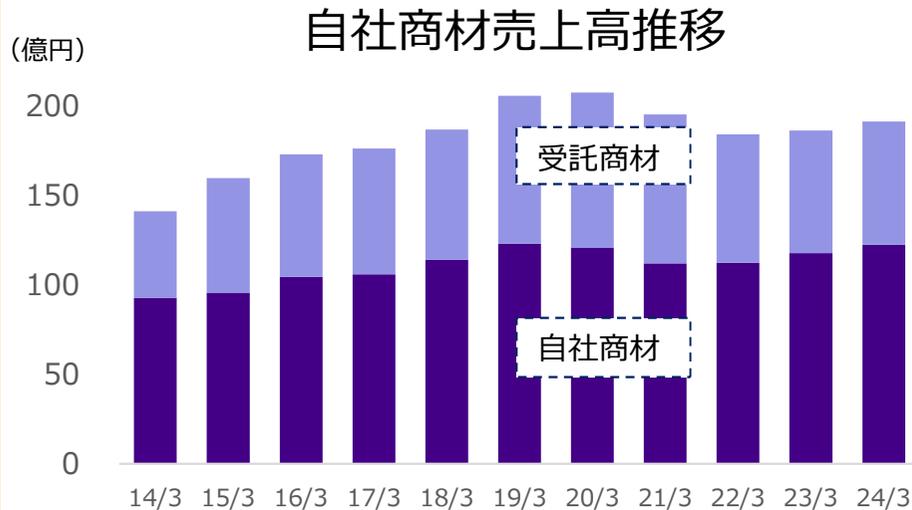
注) 営業キャッシュフロー = 営業利益 + 減価償却費

海外事業戦略の一部見直し

中国事業は、中国向け自社商材の開発が計画通り進まず、
龍和食品をパートナーに経営権を移譲するが、日本向け製品の供給は継続へ。

基本戦略の進捗状況

自社商材拡販で営業キャッシュフロー改善

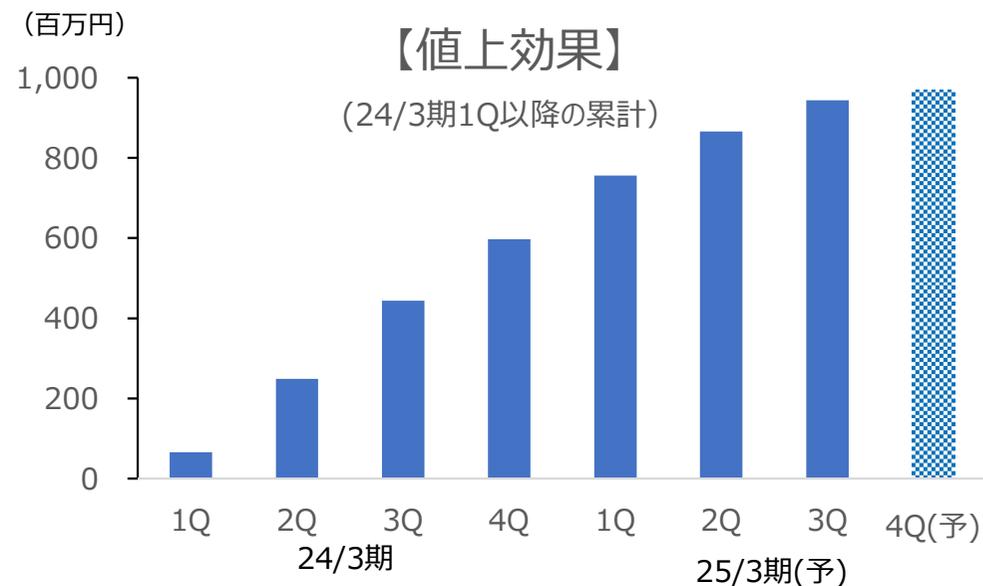


重点施策の進捗状況

今期の重点施策

① 継続的な値上げ

- ▶ ほぼ計画線で進行
2期に渡る値上げ計画は今期で一巡



② ステルスの影響を受けない新規自社商材の開発・上市

- ▶ 上期の新規商材上市数は、38品。内2/3が自社商材

自社ブランド (**Mocafoomo**) のアイスクリームを発売
当初は、さくら風味とほうじ茶を通販、近隣の道の駅での販売からスタート

Mocafoomo = Moka × Profumo

栃木県真岡 (Moka) 市で生まれた素材の香りを活かした香料不使用のアイスクリーム。
イタリア語で香りを意味する“Profumo”と掛け合わせて名付けました。

販売開始のアイスクリーム



さくら風味

ほうじ茶

海外事業の見通し

中国事業

中国経済の減速に加え、カントリーリスクが顕在化

龍和食品

→ 持分法適用会社に変更、日本向け製品の供給は継続

福州仙波

【生產品目】

粉末製品

カaramel製品

上海事務所

→ 聖域なくビジネスモデルを見直す
早期の結論に向けて検討中

ベトナム事業

SD設備の本格稼働で黒字転換を見込む、人材確保により生産体制を強化
ベトナムを拠点としつつ、東南アジア市場の開拓に向けて営業活動を推進中

【ベトナム事業のビジネスモデル】

【製造子会社】

STVC
(100%出資)

【主な生產品目】

カaramel製品

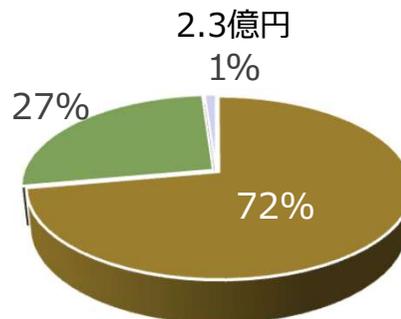
粉末製品

【販売子会社】

SEMBA-NFC
(60%出資)

一部仕入れ商材も販売

【STVC社の24/3期生産実績】 (金額ベース)



■カaramel製品 ■SD製品 ■ブレンド製品

【ベトナム子会社従業員】

(単位：人)

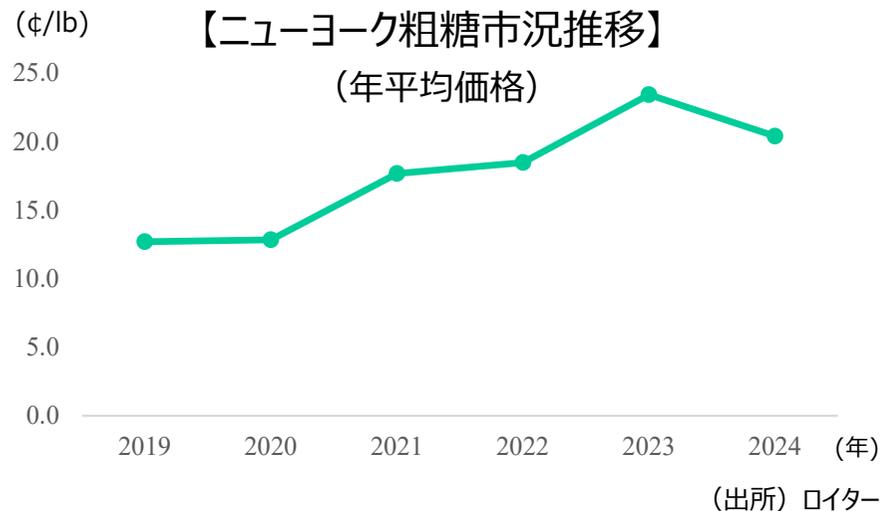
	従業員数 (現地雇用)		出向者	
	23/12 末	24/12 末	23/12 末	24/12 末
SEMBA-NFC	5	5	ベトナム事業	
STVC*	40	49	6	6

STVC* : SEMBA TOHKA VIETNAM COMPANY LIMITED

期初想定の懸念材料の動向

- ✓ 円安進行に伴う更なるコスト上昇 → 世界的な農産物価格の高騰は継続
円安によって燃料価格は依然、利益圧縮要因
引き続き値上げ対応（計画線で進行）
- ✓ 食品会社の値上げに伴う
販売量減少懸念 → 消費者選別拡大で一部商材の需要減少
提案営業と開発力強化でニーズ開拓
- ✓ 鶏卵不足の再燃懸念 → 足元、鳥インフルエンザ拡大で鶏卵価格上昇基調
プリン向けカラメル製品の販売への影響懸念
冷凍和菓子製品の原料価格の上昇懸念

【カラメル製品などの原料】



【冷凍和菓子製品原料】



環境対応を含め、業務効率化と更なる生産性向上を目指す

【新工場建設予定地】



(出所)真岡市役所HP

1. 取得の理由
既設工場の老朽化等による諸問題を解決し収益基盤の強化を実現する
2. 取得する固定資産（土地）の概要
 - (1) 所在地 栃木県真岡市寺内（真岡てらうち産業団地）
 - (2) 取得価額 約 16 億 66 百万円
 - (3) 資金計画 自己資金および借入金等（予定）
 - (4) 土地面積 約 66,376 m²
3. 取得の日程
土地売買契約締結及び土地引渡し 2027 年 3 月（予定）



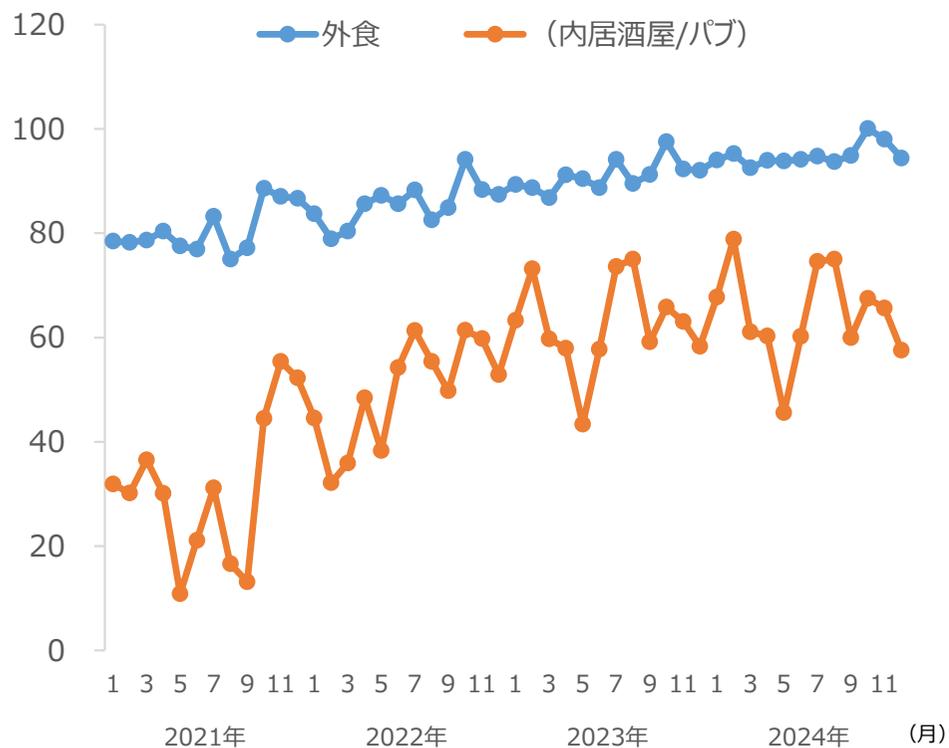
(出所)真岡市役所HP

Ⅲ 2025/3期の業績予想

外食来店客数は、新型コロナ禍以前に戻りつつあるが、居酒屋/パブの回復はやや停滞感も

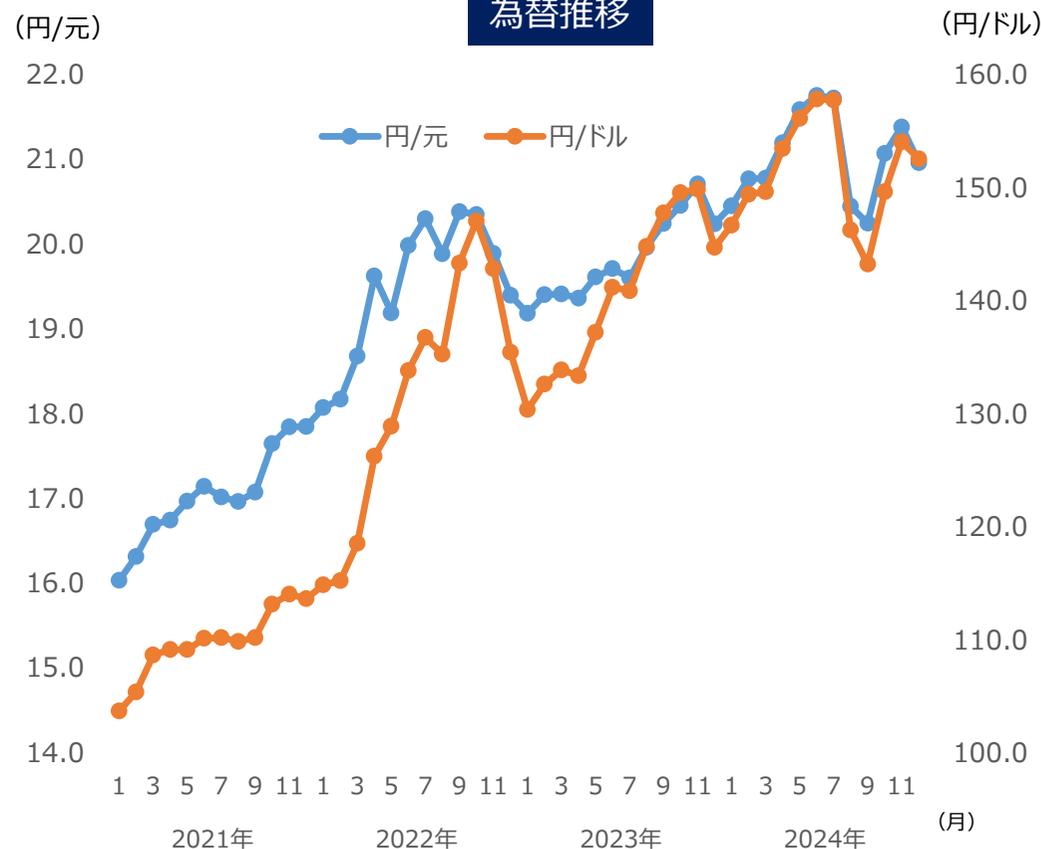
夏場に急激な円高で1年前の水準に戻るも、秋口から再び円安加速し、依然円安基調続く

外食来店客数推移（全店ベース）
（2019 = 100）



(出所) 日本フランチャイズチェーン協会、日本フードサービス協会

為替推移



(出所) 日本経済新聞

- ✓売上高は、健康食品受託の減少と海外子会社連結除外の影響で1.4%減収だが、事業継承ベースでは3.1%の増収
- ✓営業利益は、値上げ効果やプロダクトミックス改善により、12.6%の増益
- ✓経常利益は、為替差損の計上などにより、7.2%の減益

(単位：百万円、円)

	2024/3期 (1-3Q)		2025/3期 (1-3Q)				
	金額	前同比 (伸び率)	金額	前同比 (伸び率)	通期 進捗率	3Q	前同比 (伸び率)
売上高	14,520	+2.7%	14,320	▲1.4%	74.6%	5,062	▲0.3%
営業利益	584	+85.0%	658	+12.6%	74.8%	359	+10.5%
経常利益	713	+33.4%	662	▲7.2%	73.6%	257	▲21.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	489	+6.9%	392	▲19.9%	60.4%	130	▲29.6%
1株純利益	43.03	-	34.48	-	-	-	-
減価償却費	690	▲4.8%	612	▲11.3%	-		
研究開発費	193	+2.6%	216	+11.9%	-		

(注) 中国龍和食品は、2Q以降持分法を適用

- ✓円安進行でコストは上昇するも、自社商材拡販と値上げ浸透で営業利益は27.4%増益を予想
- ✓営業利益増額で、経常利益は19.2%の増益を見込む

(単位：百万円、円)

	2024/3期			2025/3期予想			
	上期	下期	通期	上期	下期(予)	通期(予)	伸び率
売上高	9,442	9,695	19,137	9,257	9,943	19,200	+0.3%
営業利益	259	431	690	299	581	880	+27.4%
経常利益	386	369	755	405	495	900	+19.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	303	192	495	261	389	650	+31.2%
1株純利益	26.70	16.82	43.52	22.98	34.11	57.09	-
設備投資額			576			1,126	
減価償却費			932			851	
研究開発費			271			304	

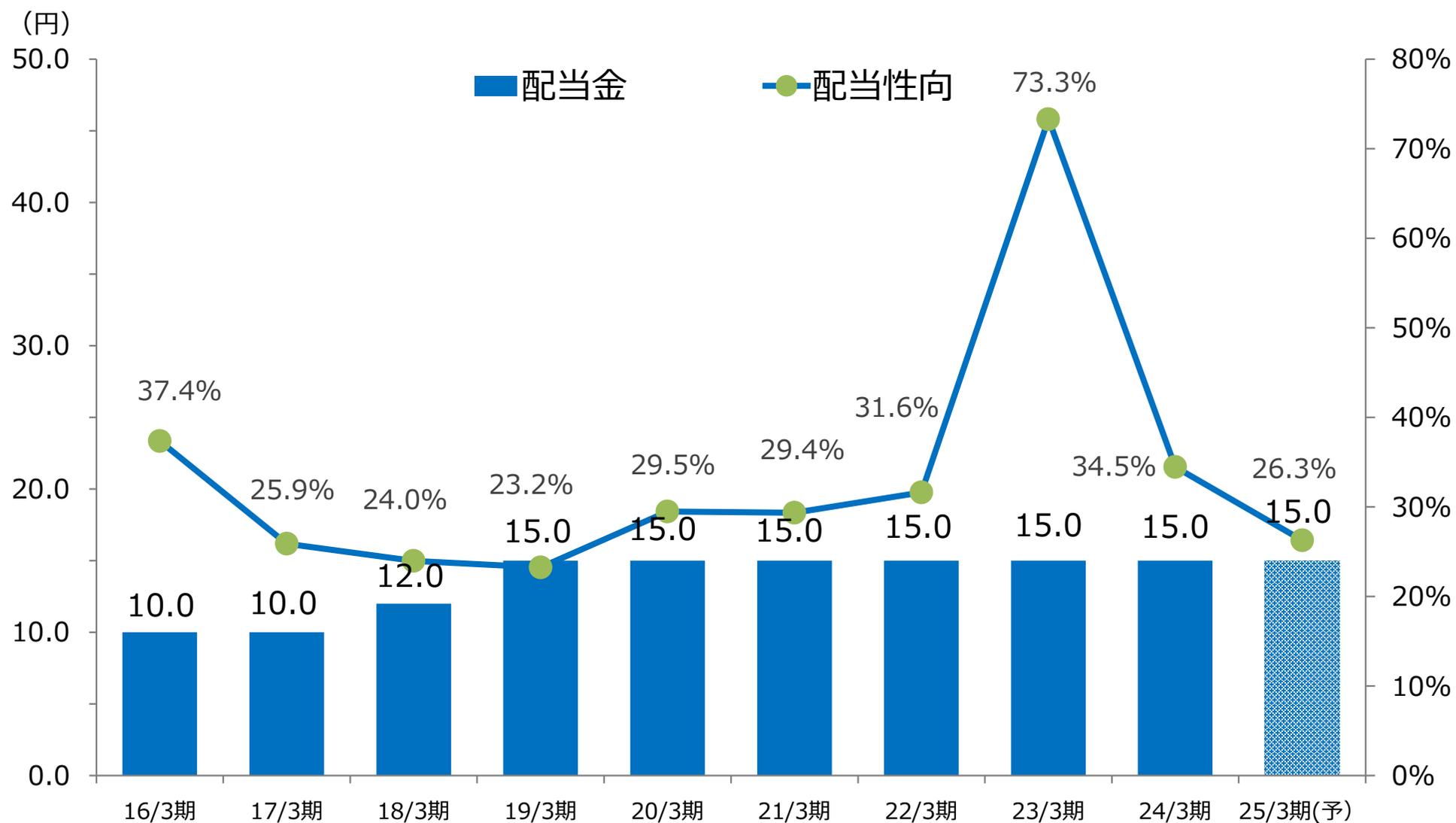
〈為替レート前提〉 24/3期:19.82円/元、145円/ドル、25/3期(予) : 21.5円/元、155円/ドル

IV. 株主還元

配当金予想

(15円/株を据え置き)

【2025/3期予想】



対象となる株主様

9月30日現在、5単元（500株）以上保有の株主様が対象。

優待内容

2021年8月6日に長期保有の株主様への優待制度を見直し



※2024年12月の優待品

3年未満保有の株主様
自社製品 **3,000円相当**



【12月上旬】



※2024年7月の優待品

3年以上保有の株主様
自社製品 **6,000円相当**



(3,000円相当×2回)

【12月上旬】・【7月上旬】



参考データ

SDGs宣言を発表

SDGs宣言
仙波糖化工業株式会社
2023年12月8日

当社は食品の「色・味・香・旨」を演出する食品素材メーカーです。1946年の創業以来、様々な技術で食の世界を支えております。当社の事業を通じてSDGsの達成に向け、下記の取り組みを実施していくことを宣言します。

資源循環型社会への貢献

- フードロス抑制の取り組み推進
- フードバンクへの食品寄贈
- 製造過程で発生する食品廃棄物の資源再利用を総務
- 食品安全マネジメントシステム規格FSSC22000認証に基づく安全な食品の継続的な提供

環境配慮型経営の実現

- CO₂排出量の測定・削減取り組み
- 工場・事務の省エネ化
- 再生可能エネルギー活用の検討
- 電子決済等ペーパーレス化の推進
- 工場排水処理の徹底による環境負荷低減

人的資本に係る対応

- 女性の管理職への積極登用
- 育児休暇取得推進
- とちぎ健康経営事業所認定取得・維持
- 定期健康診断・二次検診の再受診率100%
- 障がい者雇用の促進

SDGs経営の実装

- SDGs取り組み内容の公表
- SDGsの理念に沿った経営理念・経営目標の明文化
- 研修やワークショップによる全社員のSDGsへの理解促進
- 地元高校生のインターンシップ実習受け入れ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsは、2015年に採択された「国際持続可能な開発目標」です。17の目標と169のターゲットから構成されており、2030年までに達成すべき目標として、企業・個人・社会のあらゆるレベルで取り組まれています。

持続可能な社会の実現と、当社グループの持続的な成長および企業価値の向上に向けた取り組みとして、SDGs・ESGプロジェクトを発足させ、2023年12月には、「SDGs宣言」を発表しました。当社の事業活動を通して、資源循環型社会への貢献、環境配慮型経営の実現、人的資本に係る対応、SDGs経営の実装に取り組み、社会的課題の解決に向けてSDGsの達成を目指すとともに、取り組み内容をステークホルダーの皆さまに発信してまいります。

◆ フードバンクへの食品寄贈

品質には問題ないものの、お客さまへの出荷期限が過ぎてしまった当社の製品、主にどら焼きやドームケーキなどをフードバンクに寄贈する活動を行っております。

◆ 健康経営の推進



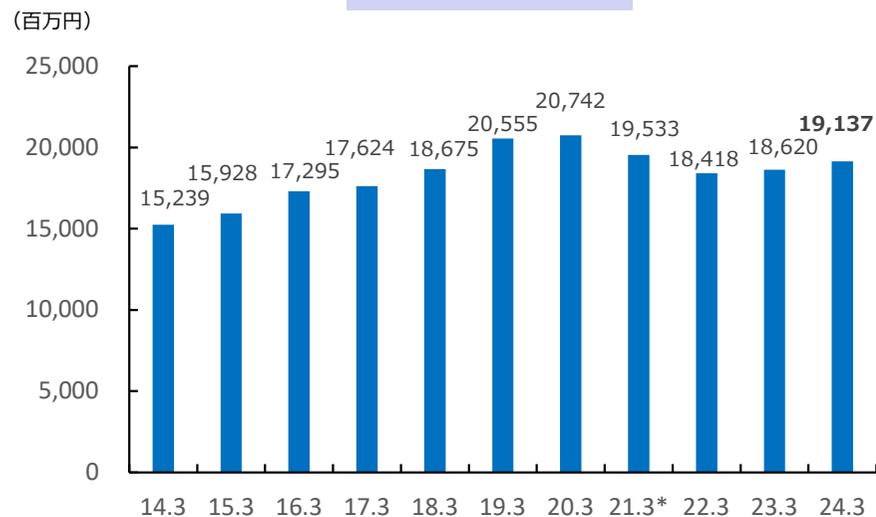
本社所在地の栃木県では、働く世代の健康づくりを推進するため、従業員の健康づくりに積極的に取り組む事業所を「とちぎ健康経営事業所」として認定しており、当社も健康経営の取り組みを通じて、その認定を受けております。



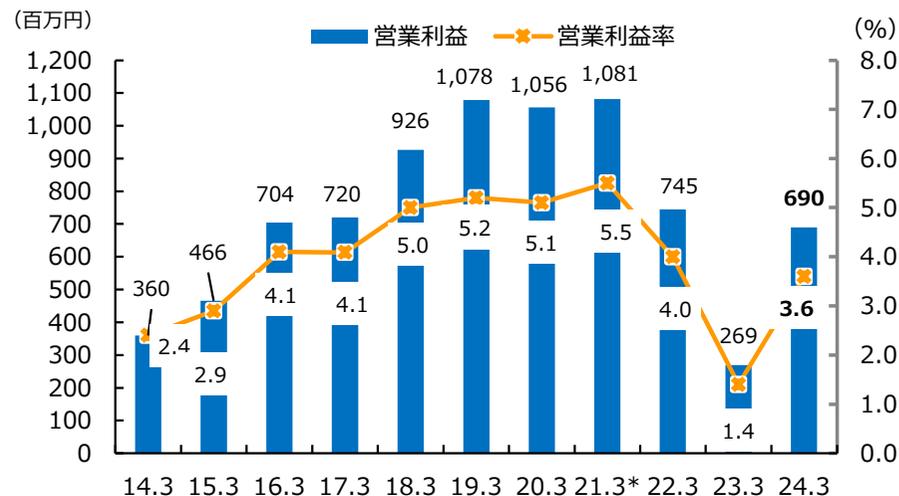
- 1946年 10月 栃木県真岡市に創業、カaramelの製造販売開始。
- 1963年 5月 スプレー・ドライヤーを新設し、粉末食品の生産開始。
- 1967年 7月 茨城県水戸市に工場を新設。
- 1971年 11月 真岡工業団地に真岡第二工場を新設。
- 1972年 5月 太陽食品包装株式会社設立。(現：仙波包装株式会社)
- 1974年 3月 真岡第二工場の第2期増設完了。フリーズ・ドライ製品の生産開始。
- 1977年 9月 本社工場に造粒設備を新設。
- 1979年 9月 スプレー・ドライヤー及び造粒設備増強のため真岡第三工場を新設。
- 1988年 9月 水戸工場を真岡第三工場へ移転。
- 1990年 7月 株式会社東北センバを設立し、冷凍山芋の生産開始。
- 1991年 1月 福建龍和食品実業有限公司を共同で設立。
- 1994年 11月 資本金13億4,050万円に増資。日本証券業協会に株式を店頭登録。
- 2001年 8月 資本金15億50万円に増資。
- 2003年 11月 福州仙波食品有限公司（現：福州仙波糖化食品有限公司）を設立。
- 2006年 4月 真岡第二工場に昆布エキス製造工場を新設。
- 2006年 9月 真岡第二工場に粉末茶製造工場を新設。
- 2007年 4月 冷凍和菓子の生産開始。
- 2007年 8月 真岡第二工場に鯉節エキス調味料設備を新設。
- 2011年 5月 真岡第三工場スプレー・ドライヤーS&B。
- 2012年 11月 株式会社東北センバ大館新工場稼働。
- 2016年 10月 SEMBA-NFC設立。
- 2017年 4月 真岡第二工場焙焼製品新工場稼働。
- 2018年 1月 福建龍和食品実業有限公司を子会社化。
- 2019年 3月 SEMBA TOHKA VIETNAM設立。
- 2021年 9月 ベトナム新工場完成
- 2024年 6月 福建龍和食品実業有限公司を持分法適用会社化。

主要財務データ①

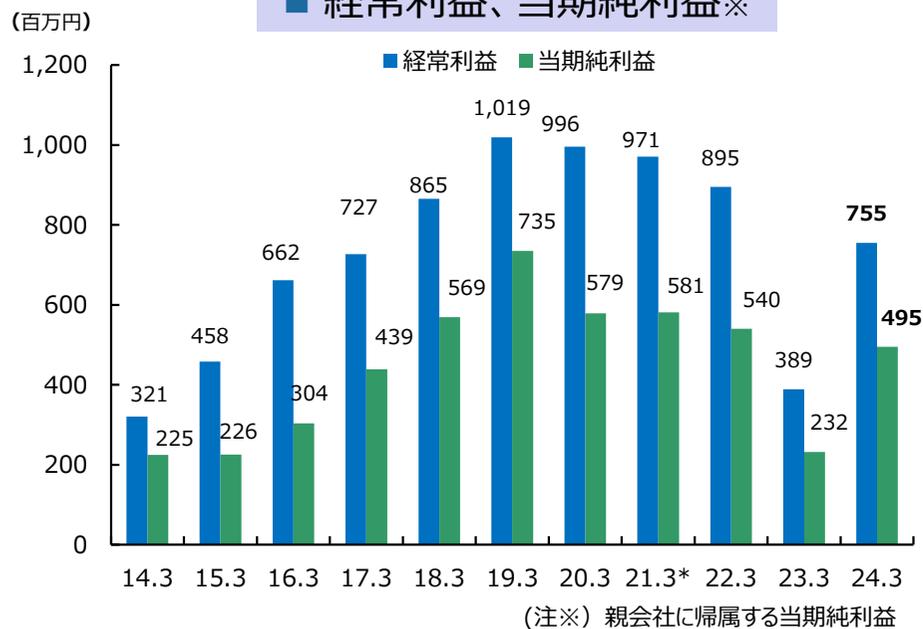
売上高



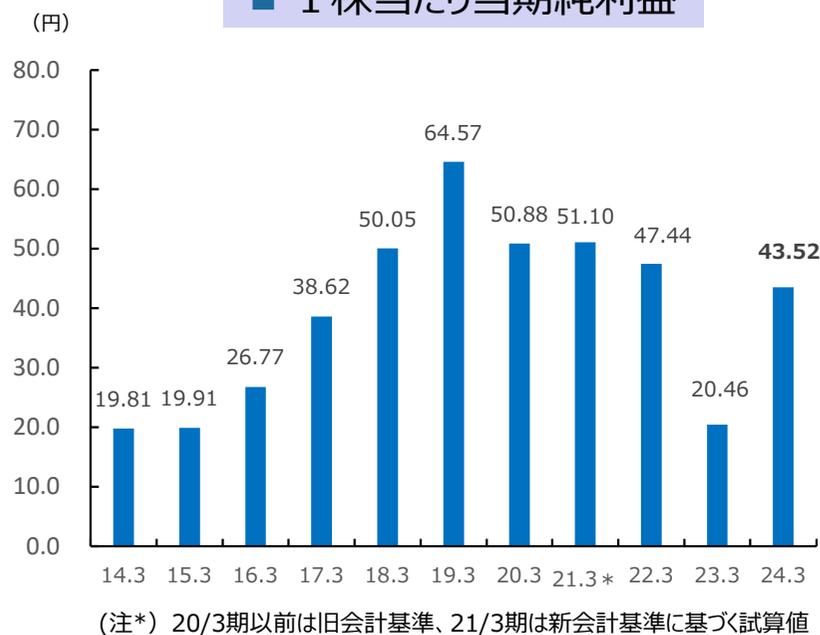
営業利益



経常利益、当期純利益※

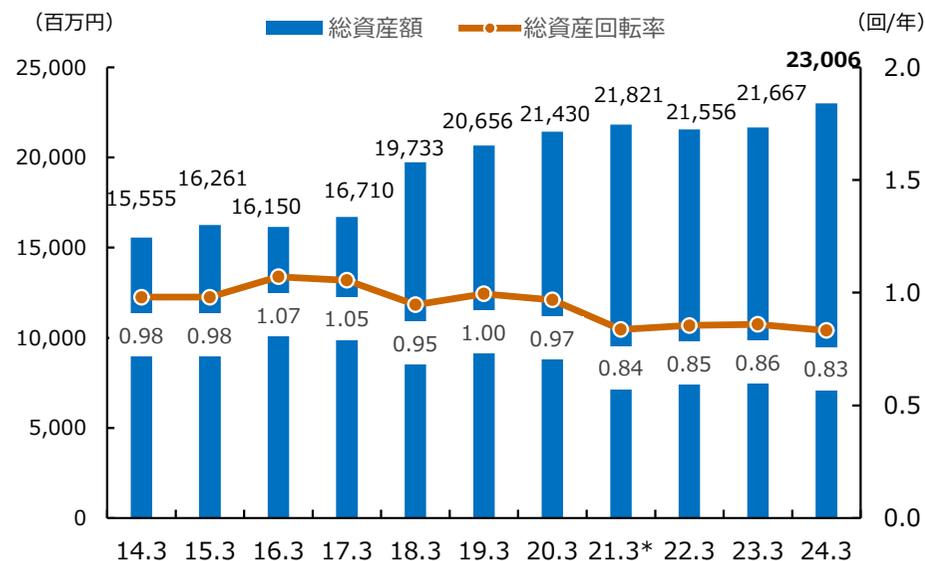


1株当たり当期純利益

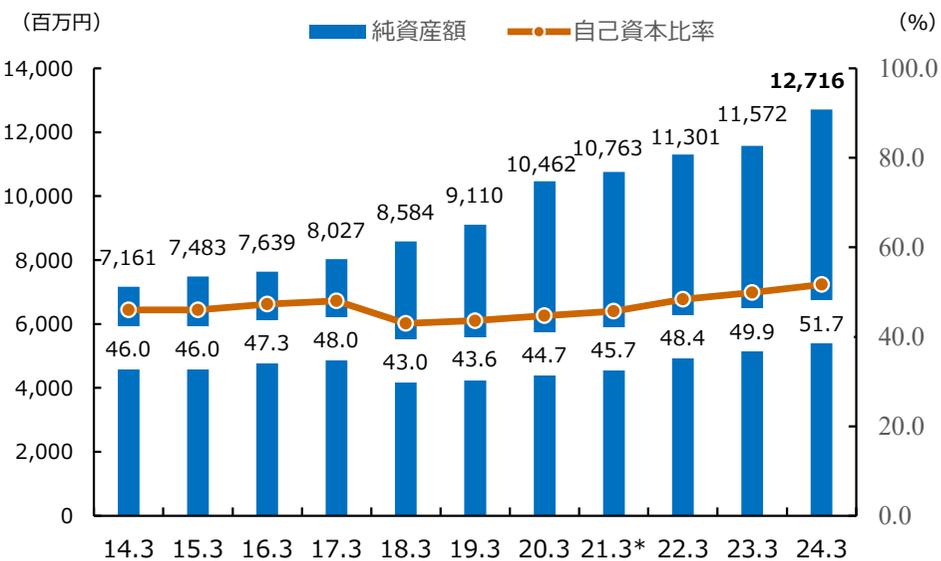


主要財務データ②

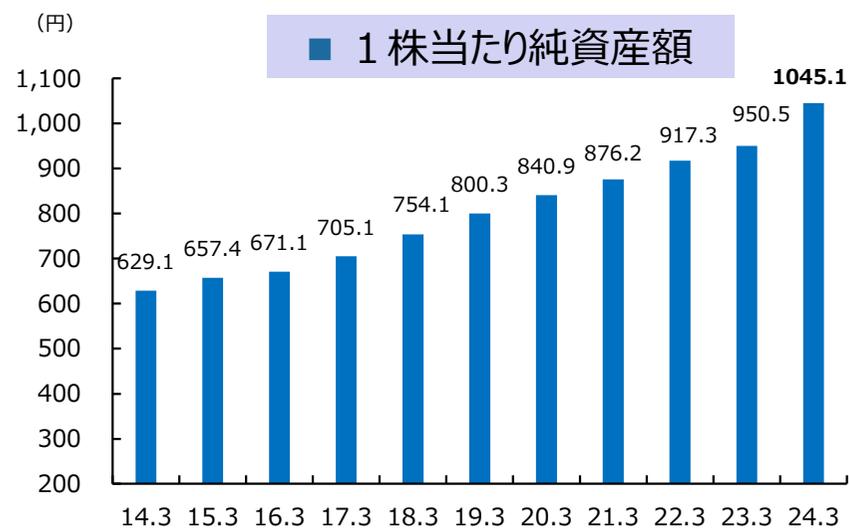
■ 総資産、総資産回転率



■ 純資産額、自己資本比率



■ 1株当たり純資産額



(注*) 20/3期以前は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

〈お問い合わせ先〉
仙波糖化工業株式会社
総務部 IR担当

TEL: 0285-82-2171

FAX: 0285-84-3283

E-Mail : ir@sembatohka.co.jp

当社IRサイトもご覧ください。 <https://www.sembatohka.co.jp/>

本資料には当社の計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれております。この「将来予測に関する記載」には発表日時点までに入手可能な情報に基づいた経営判断や前提が述べられております。そのため諸与件の変化により、実際の業績は「将来予測に関する記載」とは異なる結果となる可能性があります。従って本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、ご了解いただきますようお願い致します。なお、掲載内容について当社はあらゆる面から細心の注意を払っておりますが、それらには誤りやタイプミス等が含まれる可能性があります。